

夢のせて 出発進行

大手鉄道会社から転職し、2021年7月に北条鉄道の運転士として念願のデビューを果たした多田直紀さん。まだ24歳ですが、将来設計を立て「加西から鉄道ファンを増やそう」と日々奮闘しています。北条鉄道や加西市に対する熱い思いを聞きました。

「カタカタカタ」。北条鉄道に車を停めて事務所に向かう途中、駅構内にある車庫の中からディーゼルエンジンの音が聞こえてきました。音の主は、昨年12月に秋田県から北条鉄道にやってきた「キハ40形535」の始動音。気になり車両を覗いてみると、ハンドルを握っていたのが多田さんでした。



運命の出会い

多田さんは中学を卒業後、高等専門学校に進学し、実家のある岩手県遠野市から約200km離れた青森県八戸市で寮生活を送ることになりました。小さいころからものづくりが好きで、高専に進学したのも「建設関係に就職したい」と考えたからだそうです。鉄道への関心が芽生えたのは、ルームメートの存在。一緒に鉄道模型を作ったり、実際に鉄道を見に行ったりするうちに「カッコいい」「一度運転してみたい」と思うようになり、いつの間にかのめり込んでいきました。そして、卒業する頃には「運転士になりたい」という夢を持つようになり、大手鉄道会社に就職することになります。

「線路の主治医」

念願の鉄道会社へ就職しましたが「高専での5年間を無駄にしたくない」との思いから、線路を保守・管理する「保線区」で技術職として勤めることにしました。

列車の安全な走行を確保し、事故を未然に防ぐために線路を常に巡回。不具合がないか検査し、一定の整備基準を維持する仕事です。月に2回ぐらいは10km以上線路の上を歩きながら点検することもあり、いわば「線路の主治医」です。非常にやりがいのある仕事で2年間従事しましたが、同僚が運転する姿を見ることが、運転士への夢を諦めきれない思いが募り、退職を決意しました。

「元々が岩手県の田舎の出身。都会で働くよりゆったりとした環境で働きたい」とローカル線での運転士を探します。そして、数ある鉄道会社の中から北条鉄道への就職を決めました。初めて聞く鉄道名で不安でしたが、運転士になる夢が一步步近づいたことのうれしさの方が勝りました。

大手鉄道会社からローカル線の北条鉄道への転職。それでも「自分の中では迷いはなかったですね。やっぱりやりたいことがしたい。お金じゃないんです」と振り返る多田さん。給与など待遇面の不安はありませんでした。

もつ一つは祖母を乗せて走ることだそうです。「実は昨年の出発式の際におばちゃんを呼びたかったですけど、コロナで来れなくて。おばあちゃん子だったので早く乗せてあげたいんです。これが一番の夢ですね」と笑います。

最後に多田さんから「実は来月結婚するんです」と報告されました。公私ともに充実した日々を送り、夢を叶えるその先に、多田さんと北条鉄道の新たな未来が待っています。



休日は彼女と趣味のキャンプを楽しむ。

憧れの運転士に

2020年5月。JR加古川線を乗り継いで北条鉄道で加西市に初めて降り立ちました。第一印象は「加西市はちょうど良い田舎。商業施設や飲食店の充実が決め手となりました」。長年の憧れだった運転士になるための道のりを歩み始めました。

運転士は、運転業務の他に車両の点検作業や車両清掃、窓口対応など業務は広範囲におよびます。免許を取得するには、筆記試験に合格し、約3カ月の技能講習を受けます。技能講習について「最初はシミュレーターで練習するのかなと思っていましたが、乗客を乗せた状態で実際に運転して覚えていくんです」と驚きました。「指導員が横にいますが、操作など慣れるまで時間がかかりました。最初は頭が真っ白になりましたね」と当時を懐かしむ多田さん。技能試験で一番苦労したのは、数ある項目の中でも「目隠ししたままス

ピードを調整して、体感で速度が分かるようにすること」だったそうです。

2021年6月、無事技能試験も合格し、晴れてローカル線での運転士に。北条鉄道6人目の自社養成運転士の誕生となりました。

北条鉄道の魅力

加西市に来て1年10カ月、運転士として8カ月が過ぎました。ハンドルを握っている間は一瞬たりとも気を抜かず「乗客の命を預かっていますから。常に気を張っている。2往復ぐらいいるとすごく疲れま

さな子どもが手を振ってくれるのがうれしくて、敢えて汽笛を鳴らして手を振り返すんです」と楽しいことの方が多いと目を輝かせながら話します。北条鉄道を満喫するポイントを聞くと「運転席から見る景色ですね。長駅を通過して見える、善防山と長の石山や、田植え前の網引駅周辺の水田はとても綺麗です」と教えてくれました。

かなえない「夢」

多田さんには叶えたい夢が2つあります。1つは、子どもたちが楽しめるイベントをたくさん開催し、多くの人に北条鉄道を知ってもらいたいこと。「加西に来たからにはほとんど魅力を発信していきたいです」と前を見据え

すつきゃ かい 広報 3月

表紙	01
キラリびと 多田直紀	02
ようこそキハ40	04
特集	
市政情報	08
TOPICS 「第6回加西能」	08
イベントカレンダー	14
まちかど PHOTO ★ニュース	16
くらしお役立ち情報	20
わくわく子育て情報	25
そうだ! 図書館へ行こう	26
おくやみ/各種相談	27
とびだせ! かいっ子	28
みんなで使おう加西弁	

キラリびと vol.11

多田直紀 Naoki Tada

平成10年生まれ。岩手県遠野市出身。八戸工業高等専門学校を卒業後、大手鉄道会社へ就職。鉄道や線路の保守業務を担当。幼いころから抱いていた夢を追いかけ転職。数ある鉄道会社の中から北条鉄道へ就職。2021年6月、運転士に合格。趣味はキャンプと鉄道巡り。

KASAI データバンク

R4.1.31 現在 (前月比)
 人口 / 42,668人 (-48)
 男 / 20,919人 (-33) 女 / 21,749人 (-15)
 世帯数 / 18,176 (-12)
 1月の出生数 / 16人 死亡数 / 71人
 ● 3/2、9、16、23、30 は市民課・国保医療課
 窓口を延長 (17:15 ~ 19:00)